

別記様式(第4条関係)

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回宍粟市男女共同参画審議会	
開催日時	令和6年9月19日(木) 10:00~12:05	
開催場所	宍粟防災センター 5階 ホール	
議長(委員長・会長) 氏 名	中村会長	
委員 氏 名	(出席者) 中村会長、宮本副会長、中本委員、 船元委員、可藤委員	(欠席者) 車井委員、早川委員、 城田委員、前田委員、
事務局 氏 名	森本部長、西岡次長、池田人権推進課課長、嵐人権推進課副課長兼ダイバーシティ推進係長、野口人権推進課ダイバーシティ推進係市民相談員	
傍聴人数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
決定事項	(議題及び決定事項) 1 開 会 2 市民生活部長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議 事 (1)令和6年5月実施 市民・事業所意識調査について (2)プラン中間評価について 5 事務局より報告 高校生アンケートについて 6 閉 会	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認	(委員長等) 中村 和子	

(会議の経過)

発言者	課題・発言内容
事務局	<p>1 開 会</p> <p>2 市民生活部長あいさつ</p> <p>皆様、こんにちは。本日は何かと御多用の中、令和6年度第1回男女共同参画審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>まず、皆様方には、日頃より本市の男女共同参画社会づくりの取組や推進につきまして、何かと御理解、御協力いただいておりますことをお礼を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、市としては、令和2年度に第2次宍粟市男女共同参画プラン、令和2年度から令和11年度までの10年間で策定しまして、さらに令和3年度には、宍粟市誰もが自分らしく生きる共同参画社会づくり条例を制定するなど、互いを尊重し思いやりを持ち、性別にとらわれることなく誰もがあらゆる分野に参画し、共に責任を担うことにより自分らしく生きることのできる共同参画社会づくりに取り組んできました。</p> <p>本日は、この後、事務局から説明をいたしますが、第2次宍粟市男女共同参画プランの中間年度、令和6年度が中間年度に当たっておりますけれども、これまでの取組や施策などがどの程度進んだのか、目標値に達したのか、今後取り組むべき課題とは何なのか、市民・事業者などのアンケートの実施とその結果、そしてまた、これらの結果などを踏まえたプランの中間評価につきまして、皆様方から御意見をいただく中で今後の取組につなげていきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>結びとなりますけれども、委員の皆様方には、宍粟市誰もが自分らしく生きる共同参画社会づくりの推進と実現を図るために、今後ともお力添えをいただきますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会長より御挨拶をいただいた後、会長の議事進行をよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>3 会長あいさつ</p> <p>どうも皆様、本当にお疲れさまでございます。お日さんが暑いではなく、空気が暑いという今年、大変な夏になっております。</p>

私、いろいろなところでこの様なプランや審議会をやっているのですが、最近すごく思うのは、男女という言葉に皆様とても敏感になっておられて、「男女」やったらあかんやろ」ということがスタンダードになってきていると感じます。そのときには必ず、「宍粟市の条例は～」と言います。

私、この宍粟市の条例と一緒に勉強させていただいて、その後、加西市の条例もつくったのですが、それも結局「誰もが」という言葉になっています。現在、三木市の「女性の人権～」という人権全体のところの「女性」の箇所をやっているのですが、それも委員の皆様から「女性ってやっぱりおかしい」という話になって、もっと「多様な」とか「誰もが」とか、表題から変えようという話になってきていて、世の中が多様に一人ひとりを大事にしようと変わってきていると思っています。

とはいえ、本当に暮らしの中になれば、まだ男性は男性として大黒柱でなければ駄目なんだとか、うまく生きていくということがとても要求されている男性というのを感じるが多々あります。結局、そこで挫折したときにサイドステップが踏めない男性という、最近つらい事例がありました。

また、女性は女性で、こういう田舎の女性と都市部にいる女性という意識の二文化があって、都市部の若いママさんたちに話を聞いていると、「え、そんなことまだあるんですか」と言われます。「いやいや、ありますよ、あるでしょう」と。やはり田舎の住みづらさというところが、若い女性たちが田舎から都市部へ移動していくという大きな要因というの考えなければいけないことだと最近思っています。

本日は、後で YouTube を見ていただこうかと思っていますが、今回は、中間見直しです。この時期にやるという意味は、実は現在、予算を作っているときに、県の予算が決まらなければどうなるのかと思うのですが、補助金等も滞っているとどこでも聞きます。

とはいえ、現在、皆様方が、こんなことを具体的に実施すれば良いのではないかということが、プランのみならず予算へ反映できるという可能性が高い時期です。だから、この時期に実施してほしいことをお願いしておりますので、どうぞ遠慮なく御意見をいただけたらと思っています。よろしくお願いします。

では、議事を進行させていただくということで、事務局、まず、アンケートをよろしくお願いします。

4 議 事

(1)令和 6 年 5 月実施 市民・事業所意識調査について

(2)プラン中間評価について

～事務局より、市民・事業所意識調査結果とプラン中間評価について説明～

会長

大量な資料が届いて、皆様、お忙しい中で見ていただいたかと思います。

	<p>先ほど説明いただいたのは、意識調査では地域の平等感、家庭の性別や介護負担ということが問題ということがあったかと思います。事業所に関しては、男性育休がテーマかと思っています。</p> <p>あと、プランの中間評価については、審議会についての説明がありました。それから多様な性ということですが、これは委員がおっしゃるとおりで、当初は「LGBTQって何」みたいな感じでしたが、急激に皆様の理解が進み、ことば自体は知っているという状況です。それをどう自分の中に落とし込んで、どう受け入れていくかというところに現在来ているというのは事実です。</p> <p>それと、固定的な性別役割分担意識の解消が、どこの場面であっても大事だということというお話でしたが、それでよろしかったでしょうか。</p>
事務局	はい。
会長	<p>それでは、まとめて御意見を伺いたいということですので、ばらばらと言っていたいで結構です。あとでまとめていただけたらと思いますが、御意見はありますでしょうか。</p> <p>私、実は山ほどあります。</p> <p>1点思ったのは、この様なプランをつくるときに法的根拠というのがすごく大事です。前回、プランをつくった時から何の新しい法律ができたかという、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が新しくできており、今年4月1日から施行されています。ですので、中間評価をする限りは、ここを加味しましたというのが必要だと思いますが、宍粟市ではどこが担当しているのでしょうか。</p>
事務局	福祉です。
会長	この法律の根幹は相談ですが、宍粟市にDVセンターはありましたでしょうか。
事務局	あります。
会長	<p>そこはかなり施策を求められると思います。それが福祉ですね。</p> <p>でも、男女共同参画のプランの中にそれを入れておかないと、予算執行がしにくくなると思います。だから、相談のところを重点的に見させてもらいましたが、そこが大事です。</p>
事務局	はい。
会長	なおかつ、どうなっているのかと思ったのは相談のところ、DVネットワーク会議

委員	<p>ができてないという文言が入っていたと思います。相談が少し宍粟市の場合は薄い。</p> <p>52ページの下のDV関連ですが、主な課題として「DV防止ネットワーク会議、DV対策庁内調整会議、DV防止啓発につながる学習会については未実施」とありますが、DVネットワーク会議ができてないというのは問題です。</p> <p>説明すると、DV防止ネットワーク会議というのは、医者や弁護士に入っていて事例を検討します。市の行政だけではなく、市民の皆様も含んでDV対策に参加する。お医者さんは特に児童虐待発見する機会が多く、小児科もありますが発見する多くは皮膚科の先生です。そこは意識を持って何でも良いので通告してくださいと言っておかないとだめですので、そういうための会議です。今回この新しい法律ができたということも含めて、少し強化してほしいと思いました。</p> <p>新しくできた法律なので、福祉は忙し過ぎる。莫大な補助金、お金が落ちてきて、困難を抱える女性となるとお金を渡して終わり、みたいになりがちですが、そうではないということ。今回、国が言ってるのは、「行政だけで抱えたらだめ」だと。各自治体にあるグループだとか、援助をしてくれている人たち、その人たちのネットワークも大事にして連携して実施しなさいということも出ている。</p> <p>実は、多可町もこういうリーダー育成を実施して、そこのリーダーはそこをすごく大事にしている。何が起きているのか分かんないので、そういう活動をしている人たちとつながろうと。現在、そこへ行政が予算をつけて何かやろうとしているのですが、そういう意識をこのプランにも欲しいと思いました。</p> <p>皆様、何か御意見がありましたら。</p> <p>委員のみなさん、何か思っていると思いますので、どうぞ。</p> <p>話題になるのが、最近宍粟市北部の御年配の方々と出会うこともあり、年配の方々に囲まれて話をするのですが、やはりなかなか、昔から当たり前だったことというのが、これからも当たり前にあるという感覚で過ごされている中で私が入るので、それを覆しに行くぐらいの勢いでお話はしてしまいます。</p> <p>とはいっても、男性も女性に求めているものがすごく大きくて。市議選がもう少しであり、女性市議が出れば変わっていくということが大きなきっかけになるということで、そういう御年配の方々もすごく女性の市議を求められていて。どうなのと情報を求めて来られます。</p> <p>山崎と北部の女性の意識は全然違い、その感覚というのは、男性からしか分からないですが、北部に住んでいる女性もそういう感覚はなかなか根づかなくて、男性は求めているけれども、女性がそうではなかったりして、これは女性の意識というものをもう少し前に進ませないといけないなという事柄がありました。</p> <p>このアンケートも、年齢とかでは出ているのですが、地域別とかは出ていたりするのでしょうか。</p>
----	--

会長	<p>前回、各町4町出ましたが、びっくりするような結果が出ました。</p>
委員	<p>そうですか。やはり地域差が。</p>
会長	<p>各地域でものすごい格差がありました。</p> <p>あのときは、ある地域がジェンダーバイアスの意識がすごく強いというのが分かりました。</p> <p>やはり祭りとお城のあるところは強い。あれだけの大都市でありながら、意識調査したらもう驚いた数字になります。</p> <p>宍粟も大きなお祭りがあるじゃないですか。そういうところで、男性役割、女性役割ってというのが歴史の中で根強く残っていて。だから、それを否定するんじゃないですが、そこは意識してほしいです。つないでいけないもの、つないでいけないものというのがあるという話を前回プランのときに話をしました。</p>
事務局	<p>地域ごとで出そうと思えば出ますが、アンケート項目がかなり多岐にわたりますので、これが知りたいというのをおっしゃっていただければ、次回の審議会で御覧いただくことはできるかと思っておりますので、もし、リクエストがありましたらお願いします。</p>
委員	<p>分かりました。</p>
委員	<p>短い時間でしかこれを見ていないので、感想のようで申し訳ないですが、個人を対象にしたアンケートで前回との比較を見ながら、こういうところが変わっており、こういうところはほとんど変わっていない、なんて思って見ていました。</p> <p>事業所の結果を見ていて驚いたのが、現時点でも制度がないだとか、制度を使う人がいないだとか、そういうのがすごく目立っていました。行政関係ではもう当たり前になっている部分が、民間の事業所では全然当たり前ではないという現状がよく分かりました。</p> <p>なぜかと考えてみると、やはり事業所、企業というのはトップの考え方が中心になっている。それを変えようと思っても、従業員と話す機会、労使の関係というのがこういう田舎の事業所であればなかなか難しいのかなという思いがしたのが一つあります。事業所が変わっていかない限り難しい。個人の考えをまず変えないといけないのか、それとも事業所が変わって個人の考えも変わってくるのか、どちらかと思ったりもしました。やはり、個人の考えがまず変化して。どっちがどっちか分からないという思いがしたのを覚えています。</p> <p>それから、さきほど会長の話を聞いて思ったのが、お祭りがある場所の意識で、特徴的だと思ったのが、うちの場合は、お祭りはそんなにないのですが、コロナでスト</p>

会長

ップしてしまった伝統的なお祭りというのが宍粟の北部の何か所かにあります。おまけに子どもがいないということで、去年は取りあえず波賀八幡神社のチャンチャコ踊りが復活したのですが、私が住む自治会は子ども会が2人だけということで、全然できないので止めました。周りの自治会からは、「何で止めたんじゃ」、「しゃあないやん」ということで理解はしていただけるのですが、少し白い目で見られてたりしました。

今年は何が何でもしないといけないという気持ちがあったので、子ども4人だったのですが無理やり皆があまりやる気がないところをお願いしてやったりしたのですが、八幡さんで踊る踊りと、それから自治会に戻って自治会の中の御宮さんや公民館でみんなに披露するというのでトータル4回踊るんです。それに対して、今年初めて踊る子どもたち、低学年の子が4人そろったんでお願いしたのですが、親、要するに地元でいないお母さんたちの意見が、子どもに無理はさせたくないという思いが強かったので、それを事前に自治会でいろいろ話したら、村の中での踊りはもういいということになって、本番の八幡さんだけの踊りで済ますということができました。

そういうしきたりを知らない人たちだから仕方ないという思いが地元の人にはあったのですが、それを変えたら良いと意見がひっくり返り、まとまったという事象がありました。そういうところで、しきたりも少しずつ変わっていける面もあったりするのかなと思ったりしました。

今、自治会の中で女性の役員を、というのを市からいろいろ言われて、うちもこの話をしていこうかと思っていたときだったのですが、そういうところに女性が出てこられる自治会なのか、どうなのかというのが今後の課題かと思ったりしました。

私は教師をしていたのですが、子どもたちに「ふるさと愛」を伝えるのに祭りはとても良い。そのときに、地域の年配の方の「ここは、昔はこうだった」とか「あの石にはこんな意味がある」とかを、子どもたちが聞いたりする。先生ではない大人の人から村のことを聞くというのは、すごく「ふるさと愛をつくる」という意味で、私は実はすごく大事にしていました。

逆に、区長や地域の人に、どんな小さいのでも良いから「虫追い」でも良いから復活させてくれと頼んだんです。自分とこの村にはこんな昔から実はこんなことをやっていて、今は途絶えているけどという。子どもには、逆に自分たちの村でそういうことがあったら、あなたたちで復活させなさいというので高学年の子には言っていたら、結構やってくれました。やはり低学年だからでしょうか。今の低学年の子どもたちを育てている親は、自分軸でしかものを考えてない世代が多いです。決めつけてはいけないけど。

だから、逆に言うと、自分たちの村にこういう文化があるということを親も一緒に勉強してもらいたいと思います。大事にしてほしいですし、昔はこうだったからではなく、話し合いで変えていけて、でも、伝えていくことは残していくってすばらしいで

	<p>す。</p> <p>そういう村というのは、何か住みやすいです。私の住んでいるところは、何を言っても空へ向かってものを言っている感じがします。</p> <p>「宍粟市自治会女性役員参画推進事業補助金」の話は後ですのでしょうか。</p>
事務局	はい。
会長	<p>女性役員について、例えば何々という地区でほんとうに全部男性なのか、その地域が女性役員を出したいと思っているのか。出したいけど困っているのか、要らないと思ってるのか、その調査がまず必要だと思う。</p> <p>出したいと思っているところがあれば、行政はそこに入ればいい。</p>
事務局	数字は押さえています、意識的なところまでは調査してない状況です。
事務局	意識をつかんでいかないと、言われるほうも困ると思う。急に女性、女性と言われて。
委員	<p>うちの自治会に関しては、意識がなかったです。</p> <p>「女性役員か、そういう発想があるんやな」というのが正直なところで。役員は男がするものというのでずっときてるので。</p>
会長	そうだと思います。
事務局	現在、6地区の自治会において女性の三役さんがいらっしゃいます。
会長	それは、山崎が中心ですか。
事務局	山崎が多いです。
会長	そうですね。
事務局	これまでの歴史において、女性部が自治会内でもありましたので、女性の意見は吸い取れているという自治会長もいらっしゃったりします。
会長	女性部があるかないかも大きい。区長がどこに言いに行くかみたいな話になるので。そういうところには、こんな方法もあるだとか、伝えていかないといけない。女性部があれば、「2名ぐらい出してくれる」と言ったら出してくれますから。

	<p>少し細かい調査が必要かと思います。この前、私が住んでいる市でも、調査のやり方が雑だと文句を言いました。小野市がうまくいったのは、そこをやったんです。やりたいと言うところがとても助かります。でも、女性は言いについても何も言ってくれないところは結構あったので、市街地と周辺の小さい村は、「言いに来てくれないでしょうか」と説得しに行きました。女性同士だと言いやすい。自治会のお話を出していただいております。</p>
委員	<p>先ほどのお話ですが、自治会長や副会長とか、私がしたいと言ってもさせてもらえないと思います。そういうものがあるのではないかと。会長は副会長がなり、会計の方がなり、順番に上がっていくような。結局、国会議員や県議員もそうですが継続性がない。任期も2期だけとか、1期だけとか自治会によって決まってるのですが、うちの自治会は4期、5期目と変わるタイミングがなくなっている状態です。ですので、私がしたいと言っても多分できない、だから、そういうのを変えていかないと駄目なのかと思います。</p>
会長	<p>そうなんです。だから、規約改訂させないといけない。</p>
委員	<p>したい人は多分ずっと元気なので、変わる新しいタイミングというか。自治会長同士につながりがあるので。</p>
会長	<p>でも、基本的に人口が減ってるので男性が言いたいのでしょうか。</p>
委員	<p>自治会の役員の考え方自体、山崎とそれ以外とは全然違います。山崎は従来どおりというイメージがあります。何年もされてる方が多い。</p>
会長	<p>感覚的に言うと、田んぼがなければ女性が簡単になれると思いますが、そうではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>祭りのことなんかも、一宮は祭りがあるので女性は・・・、というような意見も聞いたりしています。</p>
会長	<p>トップを生もうと思うとなかなかハードルが高い。 三役に女性が入っていくっていうのはすごく意味があると思います。逆に言うと、三役や役員が出た女性たちのための集まる会を絶対にやらないといけない。孤独にさせたらだめで、そこがワンセットになっていないと。そこで、例えば新しい知識を勉強するだとか、女性が頑張る意味をもう一度考え直してもらおうとか、つながるということをやらないと。</p>

事務局	<p>これ、実は簡単そうですが、結構な予算でしょう。</p>
会長	<p>そうです。</p>
事務局	<p>ですので、準備して失敗したということがなかなか難しい事業だと思います。失敗する要素の高い事業なので、準備とか、丁寧な対応など、視点を大きく置いておかないといけないと思います。</p>
事務局	<p>議会にも令和7年度の予算になるので、説明もした中で。</p>
会長	<p>そうですね。</p>
事務局	<p>連合自治会の役員会でもお話ししたときに、10万円とか5万円という、お金だけの話になりました。</p> <p>私がいつも言うのは、補助金を出すことが目的ではないと。宍粟市としても、いろいろな女性参画であったりだとか、女性の意思決定の場に出ていただきたいということの一つのきっかけづくりで、宍粟市がここまで本気でやり出したということの一つの投げかけなので。</p> <p>例えば、なかには役員、隣保長でも出してほしいとかお金のことだけになるのですが、そういうことではないと話させていただいています。宍粟市としても、こういう土壌ができ、市議に出ていただく人も必要でしょうし、一つのきっかけづくりということで。</p> <p>今まで何もなかったもので、とりあえず市長とも予算の査定のときに話したのですが、取りあえずやってみないと分からないということで、市長も納得してくれました。</p>
会長	<p>おっしゃったとおり、波風立てたらいいと思います。その地区がどんな考え方をしているのか本当によく分かります。</p> <p>地域ってすごい根深いです。どう思われますか。</p>
委員	<p>地域のことと言うと、私も宍粟市外居住で、先生がおっしゃるとおりで、実際に祭りとなれば祭り中心で回っているところがあり、自治会長など、そういう方というのは選挙では一応するのですが、やはり地域の名士だとか、そういう人がずっといてという感じの地域です。また、実際の話、事業所についても地域の祭りを中心に考えているところなので、そういう意味では男女共同参画の意識は低いところもあるのかと。</p> <p>ただ、女性の方が全て嫌と思っているのか、その辺はまた別の話になると思うので。これに関してもそうだと思います。ですので、先生がおっしゃるように、実際に本</p>

<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>当にやりたい人がいるのかも含めて、意識調査も必要かと。</p> <p>もう一つ、今回の事業所アンケートの結果で気になったところがあります。先ほどおっしゃったように、事業所の休暇制度がないという事業所が多いという部分で、その業種を見たら、建設業、製造業、医療・福祉関係など、従業員が比較的多いと思われるようなところが回答されているにもかかわらず、そうなっているところというのは意外でした。</p> <p>実際に私が業務で相談を受けるのも、その辺の法改正もあったので、働き方改革関連の相談が結構多い。実際、制度化したり就業規則を見直したりという意識は割と持たれているのかなと正直思っていたのですが。</p> <p>その中で気になったのが、従業員の雇用形態の割合で、正社員の割合が平成30年に比べて減っているというところがあったのですが、パートタイマーの方の割合が増えていて。全体的に従業員の数が減っているのかもしれないと思いながらも、例えば就業規則に関しては10人未満の事業所は基本的に就業規則を監督署に届けなくてもいいので、その辺の関係もあるのかなと。かといって、社会保険の適用事業者5人以上従業員がいれば強制適用になる。</p> <p>家族従業者なのかどうかはアンケートでとってないんですよ。</p> <p>そうです。家族内就業というようなところも従業員として。</p> <p>そこも影響しているかもしれないです。</p> <p>ワークライフバランスについてということで、有給休暇の取得や長時間労働、ここは絶対に働き方改革の関係で義務化されているので、ここを見るのは当たり前かなというのはあります。仕事と介護、育児等についても当然法改正の関係で最近取り組まれているところが多いのは現状です。ここに取り組まれているというところが伸びているにもかかわらず、いろいろな制度化がされていないというその内容というのが、私も不思議だと思っています。</p> <p>実際に男性の育休に関しては、従業者の年齢の影響が大きい。実際に若い従業員で対象になる従業員のいないところはかなり増えているので、正直、社長の年齢も平均年齢が60代後半から70代ぐらいになってる状態です。しかも、従業員も同じように50代以上というのがもうほとんどになってきているところが多い。その辺の兼ね合いもある部分ではある。それで介護関係が少し増えているのかと思います。</p> <p>どちらにしても、私の業務としては、制度の法改正もあったのでそういうところは注意してまた周知をしていかないといけないと思った次第です。</p> <p>人権推進課と共催で現在セミナー等を実施しているので、少しずつ意識は変わっていったところはあるのですが、大きな企業はそれなりに変わっています。興味を持たれている方というのは割と増えてきたと思います。</p> <p>事業所でも少しずつそろっていくのではないかと。特に、建設業、製造業のところ</p>
----------------------	--

事務局	<p>は少しずつ変わっていくのではないかと思います。</p> <p>令和5年度から商工会と御相談させていただいて、委員が言われたように、事業所が先なのか、個人の考え方が先なのかみたいところでいうと、その答は全くなくて。実は両輪で全てが関係性を持ちながら、職場での知識を家庭に持って帰って、家庭の中でも性別分業だとか、その考え方を思い直してみる家庭での取組を職場での業務のところでも変えて見るという。それを地域にも返すというような3つが繋がったような、そういう社会が大事なんだろうと思いました。</p> <p>また現在、こういう取組をされているのが豊岡市でも企業・事業所セミナーをされているのですが、行政だけではなかなか企業に来ていただくのは難しく、商工会と一緒に御協力いただくことで企業もそういうセミナーを受けていただけるというところで、そういう社会を目指していきたいと今年度スタートしたというところがあります。</p> <p>男女共同参画のテーマで言いますと、とてもたくさんだと思います。男性家事に焦点を当てるのか、人材育成のところにあてるのか、今でしたら労働力不足と言われているので、人材確保をするための背景をつくるというところに焦点を当てるのか。本当にいろいろなテーマがある中なので、今年度したところは予算的な部分はありますけれども、継続していけたらなという思いの中でやっていきたいと思っています。</p> <p>そういう中で、このアンケートの結果について、アンケートを答えられたのが企業の規模数でいうと、大手企業までは御回答いただけていないというのは感想としてあります。最終的には、そういったところにも波及するよううねりができたらと。先ほど自治会役員の補助金の話ではないですが、波を立てるといえることが大事だという思いの中で進めていきたいと思っています。</p>
会長	<p>宍粟市の調査は、企業のアンケートを毎回とってくれていて、すごく珍しいです。企業規模いったら、家内工業がほとんどですか。</p>
事務局	<p>多いです。</p>
中村会長	<p>5名以下。</p>
事務局	<p>5名以下のところも。</p>
会長	<p>そこに男性育休なんかは、はっきり言って無理でしょう。思っているのは、若い人が本当に宍粟市で働きたいと思う場所があるか。男性についても。そこだと思っています。</p>

	<p>現在、女性の流出というのがすごく問題になっていますが、実は男性も流出しています。ただ、女性の流出が2倍なので女性のことを国は言っており、女性は子どもを産むので、産む人を確保していきたいという考えですが。</p> <p>でも、若い男性にとっても魅力的なのかどうかというところだと思います。加東市にアイスクリームの蓋のプラスチックの加工をやっている会社がものすごく人気です。男性育休100%で、就業者の年齢構成がすごく若くて、ただ、若干給料がほかのどこより安い。でも、若い人たちは働きやすいから行く。子育て休暇もきちっとある。</p> <p>私の知り合いの娘もそこで働いているのですが、ここで最後まで働きたいって言っている。もちろん、女性の管理職いる。考え方だと思います。今の若い人たちのニーズに合っていない。例えば、残業が多ければ皆辞めるので。</p> <p>私が教師時代に教えた子ども達がちょうど今40代弱、30代後半ぐらいになっているのですが、彼らと会って話をしていると、女性も男性もどちらも働くことにすごく燃えている。いい働き方がしたい。今出会ったら結婚しても良いみたいな感じで。就職して5年間はとにかくしっかりお金を貯め、お金を貯めて起業を考えている。それはなぜかという、いい働き方を自分でつくりたいからと言うんです。その若い人たちの、男性女性にかかわらず、声が今の働き方に反映されているのかと思って。それはすごく、そうなんだと思います。</p>
委員	<p>実際、規模の小さいところでも若い子が来るところはあります。そういうところは何かという、残業とかはなくしています。残業するのはしますが、時期的にもこの時期と決めてという形で。あと、できるだけ休みを取れるようにだとか、そのように持っていてという事業所もあるし、いろいろです。</p> <p>建設業の方でも、女性の若い子が入られるというケースも増えています。去年か一昨年か、インターンシップに来て就職された子で、1年目の子が、自分は採用担当なのでインターンシップをする立場になって、そのように思い切って若い子に任せるといった風潮のあるところもあるので。</p>
会長	<p>いいですね。そういうところをもっとPRしたい。こうしたら若い子来ると。</p>
委員	<p>そういう取組を商工会ではさせていただいているのですが、やはり生きがいとかやりがいとか、その辺を若い子が求めているので。</p>
会長	<p>そうですね。</p>
委員	<p>どちらかという、お金じゃないところもある。</p>

会長	<p>副業を許可したら、SNSで稼げたりする。給料が若干安いけれども、すごく働きやすくて、定時の6時ぐらいには帰れる。そうしたら、その後の夜の時間を自分のYouTube などでも稼ぐこともできて、給料と同じぐらいもうかるとか言っているとか。やはり、私たち大人は少しアップデートが必要です。</p>
事務局	<p>自治会の関係で見ていると、いわゆる限界集落ってという言葉はすごくお先真っ暗、もう何の手だてもありませんというイメージで、実際の限界集落の人たちはもう意見も何も無いという状態です。</p> <p>消滅自治体については、限界集落が高齢化率だったのに対して、消滅自治体は20代、30代の女性の数が基準になっていると聞いて、それだったら何か手だてがあるのではと単純に考えることがあります。</p> <p>そういう方たちが働く場、それから子育てをするときに思う魅力的な教育をどれだけ実施しているかというものがある程度基準になったりするのとか。それだったら、手だてをこれから考えられるのではないかと思ったりします。そういうものがこの男女共同参画という事業の中で、教育に意見を出せるということができたら面白いのではないかと思ったりします。</p>
会長	<p>消滅自治体って、50年後に若い女性が50%以上減るという数字が出たときに消滅自治体になってるのでしたか。宍粟市も入っていましたね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会長	<p>なぜか私がアドバイザーとして関わっているところは皆、消滅自治体と言われています。</p> <p>おっしゃるとおり、「地方女子プロジェクト」というのが現在動いていて、地方の子が都会へ出て行って、都会で暮らしているその人たちにインタビューをしている。はっきり言うと、おっしゃるとおり、働きがいのあるところがないということです。女性で入ったら、まずお茶くみばかりさせられて、とっとと辞めて、都会へ行ったらそんなことはないだろう、自分のことを生かせるだろうと。</p> <p>私が関わっている但馬地域のある市も消滅自治体なのですが、そこで、大阪にいたのだけれども地元へ戻ってきた人がいた。地元でいろいろな会社に採用面接を受けたときにすごく疑問に思ったのは、自分は二十五、六で地元へ戻ってきて、こういうことをやりたいと企業面接をしているのに、面接者から「結婚はしますか」とか、「子どもを産んだらどうしますか」とか、そういうネガティブなことばかり聞かれたと。自分は田舎へ行って、若い女性で「働きます」と言ったら、もろ手を挙げて歓迎してもらえと思ったのに、何だこれはと言った人がいて、そのとおりだろうと思いました。</p>

事務局	<p>この人口流出であったり、女性が出ていく、地域まちの活性化というところで言うと、キーワードは経済だと思っています。</p> <p>やはり魅力のある、一旦女性が外に出たらそれなりに自分が活躍したい場とか求めれば大きな機運になったりだとか、そのような目がそちらにいくと思うのですが、そこでも働きやすいものがあったりだとか、地域にそのようなものがあれば帰ってきます。</p> <p>私は、この男女共同参画の女性参画とか、女性の部分であったりだとか、人口流出とか、女性の帰ってくるという部分でキーワードは経済だと思うので、うちの産業とも連携しないといけないと思っています。</p>
会長	<p>そうですね。</p> <p>今、とにかく女性たちはいくつものなっても働きたい。ただ、働きたいけれども自分を生かせる場所がある意味、確率の問題で、田舎というのはやはり少ないので、男性中心で動いてるので出ていったら、東京だったら何とかなるみたいに言うけれども、東京も大したことない。給料は若干高いが、その分家賃が高いし、物価は高い。</p> <p>北播磨に住んでいて神戸に勤めに行ってる女性がいるのですが、理由を聞いたら、神戸は時給が200円違うと。それは、大きい。やはり可能性はある。</p> <p>おっしゃるとおりだと思います。</p>
委員	<p>私も京都で事務員として働いていて、自分らしく働いていきたいなどと思って、宍粟市に帰ってきて仕事を探すと意外に職種がない。したい仕事になかなか見つからない。その中で、働いてみようと思って働いたのですが、やはり性の決めつけがあったり、何か違うと思いつつ過ごして、結局、そこも辞めてしまいました。</p> <p>結局、自分のしたいこと、自分の価値を認めてくれる、その自分が持っているものを生かせる場所というのがなかなか正直、見つからないと思っていました。</p> <p>結果、今起業して自分でやるしかないみたいな形になったのですが、なかなか小規模で個人事業なので難しいところです。</p> <p>実際に、女性の商工会とかお話を聞いていて、女性部のお話を聞いていても、社長の奥さんの会的な感じで、宍粟市で女性の起業家がなかなかいらっしゃらない。女性の目線で、男性の社長と交流があったときにそういう話ができれば、もう少し進むのではないかと思います。</p> <p>ほかのところだと、ビジネスコンテストとか活発にされていたり、自分のしたいことや、若い人たちのビジコンで賞金もって事業をもう少し大きくするなり、事業を起業されるなりということがあったりします。隣の町とかでも見かけたりしたので、ぜひビジネスコンテストみたいなのを実施して活発になれば良いのと思います。</p> <p>そうしたら、何かやりたいという女性は私の周りのママ繋がりにも多いので、やり</p>

	<p>たいけれども、その意思をもって子どもがいながらも自分でしっかり稼ぎたい、起業しかない、それぐらいの勢いの強い女性が結構いるので、そこで背中が押せたりだとか、そういう人たちが集まったり相談できたりする場って意外になく、自分でやるしかないみたいな感じがあります。創業塾に行かせていただいたのですが、結局、私みたいな小さな個人事業と創業者では差があり過ぎて、もう少し小さい何かがあれば。</p>
委員	<p>基本的に、個人事業で一人で立ち上げる方がほとんどです。</p>
委員	<p>そうなんですね。よかった。</p>
会長	<p>いいじゃないですか。</p>
委員	<p>そうしたら、自分のスキルなり、今までやってきた経験が生かせるではないですが、それが軌道に乗せるかどうかはその人次第で。今はそうじゃない、介護があるとか、子育てがあるからちょっとセーブしながらあまり営業活動もしてないみたいな感じにはなるのですが、後にそういうので食べていきたいという人がいらっしたら、どんどん逆に従業員を雇えるぐらいまでに成長していただいて。そうしたら、もしかすれば私にもできるだとか、私もそんなところで働いてみたいという方、同じ思いをした方々が増えるのではないかと思います。</p>
会長	<p>意識調査の28ページ、「男女の地位の平等感」の「社会通念・慣習・しきたり」、一番このデータが気になりました。</p> <p>「男性のほうが非常に優遇されている」というところで30代、40代、50代、60代の女性がすごく増えており、「どちらかといえば」も入れれば、飛び上がっています。</p> <p>この年代は、子育て世代の女性で、この母親が子どもに何をどう伝えているのだろうというのが気になります。</p> <p>私に関わっている町でこれがすごく議論になったことがありました。子どもを育てている母親が「この町っていいよね、好きやんな、こんないいところあるよね」と言っているのか、「ここはほんまうるそうてしゃあないから、あんたもこんなところ住んだらあかんで。もう、都会に行っちゃんと働くねんで」とか。子どもに対して、男の子、女の子限らず言っていたら、やはり子どもは出て行って戻ってこないと思います。この世代の女性が幸せかどうか、実はすごく大事なことだということをすごく思っています。</p> <p>となると、彼女たちは何が生きづらいのかと、ぜひこの世代に焦点を合わせて女性の意識調査をしてみたいと思っています。この世代がしっかり子どもに「いいところでしょう」、「お母さん、ここへ結婚してきて幸せやわ」って言っているか。言っていない</p>

	<p>いだろうと思います。</p> <p>私自身も、現在娘が45歳で、田舎で城跡もある、祭りもあるところなので、江戸時代を引きずっているようなところですよ。娘には、「あなたには可能性があるから、好きなように生きなさい」とずっと言っていました。大学を選ぶときも、結局は「行きたいところへ行ってもいいけれども、大学はまだ親の扶養の中にいるから、病気したとかいったらお母さんが行きやすい名古屋から広島の間にしてね」とか、そんな言い方をしていました。就職に関しては「もう好きにきなさい」と言ったら、やはり東京に行ってしまった。そんなの、帰ってこないでしょう。この年になってくると、少し後悔しています。</p> <p>やはりこの世代の母親の思いというのをすごく大事にしたいと思う。この生きづらさを生んでるのは男性中心社会だと思うし、それに加えてもう一つは、家庭の性別役割分担意識が前回よりは解消されていると調査結果にありましたが、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方は解消してきていますが、「家事・育児は女性」という意識は解消されていません。何が起きているかという、女性は家事・育児も仕事もしないといけない。だから、この質問は聞いて良いのですが、もう一つは、「家事・育児は女性という考え方はどうですか」と聞かないと本当の姿は見えないと思っています。</p>
委員	<p>そう思います。「無理しないで」と言われますが、自分がしないと。仕事もして家事もして、洗濯は3回して、掃除して、御飯の準備までして。これが元気なときは良いのですが、病気になったときに代わり的人がいないので、そういう代わりに何かしてくれるみたいな。</p>
会長	<p>ヘルパーみたいな。</p>
委員	<p>そうです。介護ヘルパーも障害や病気になれば使えるのですが、病気になったときに入院して大変だったので。そういうときに何分かでも家の代わりというか、買物とかいうのもそういうヘルパー的なことをしていただけたらありがたいと思います。</p>
会長	<p>それが、実はキーワードで、今言われているのは、女性の30代から50代、60代女性が焦点ですと言っていますが、若い女性も含めて、「女性への支援」で国が実施しているのは「=子育て支援」しか実施していない。つまり、子どもを産まない女性に支援してもらえない。つまり、若い子たちは「子どもを産むためにおまえらふるさと帰ってこい」と言われているんです。それは帰らないだろうと思います。</p>
事務局	<p>時間も迫ってきたところですが、先ほど会長がおっしゃった40代、50代の子育て世代のどういう状況かというのは、アンケートをとっておりまして、調査報告書の49</p>

<p>会長</p>	<p>ページを御覧いただくと、理想と現実を聞いています。これを見ると愕然とするというか、やっぱりそうかという感じです。</p> <p>例えば49ページを御覧いただくと、②で家事の理想と現実はどうですかと聞いています。現実は、「主に妻」が前回の調査よりも上回って「主に妻」になっているのですが、理想は「夫婦同程度」が増えている。人との会話で誰かに言うときは、「そりゃ、夫婦同程度でしないと駄目よね」と言っているけれども、実際は妻がかなり背負ってワンオペ状態っていうのが、このアンケートの中でも明白です。</p> <p>実際のところ、なかなか追いついてこない。頭では分かってるけれども追いついていないというのが、このアンケートでは顕著に出ていると思いました。</p> <p>一番に家庭の性別役割分担意識を解消するのは、男性育休だと思います。やはり子育てに関わることで、男性はこれまで眠っていた才能とか考え方とか、子どもは訳が分からないから、それを経験するっていうことが大事で。「こんなに大変なら一緒にやろう」だとか、「ここは僕ができる、任せよう」だとか、そういう会話がたくさん出てくると思うので、男性育休って大事なので国も本気を出してやっている。男性が子育てに関わると子ども、第2子以降が生まれる率が9倍になるというデータもあります。</p>
<p>会長</p>	<p>5 事務局より報告 高校生アンケートについて ～事務局より、高校生アンケートについて説明～</p>
<p>事務局</p>	<p>これは、意見を言っても良いのでしょうか。まだ修正は利きますか。</p>
<p>会長</p>	<p>すでに学校にいつてます。</p>
<p>事務局</p>	<p>これはなぜ自由記述がないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>自由記述については、「その他」のところと、あと「総合計画であなたが市長になったらどんなことをしたいですか」を聞いています。</p>
<p>会長</p>	<p>ジェンダー平等のことを聞いているので、ここは自由記述が必要だったと思います。それと、もう一つは、LGBTQのことが書いてない。LGBTQを聞くときは、「LGBTQを知ってますか」ではなく、「あなたにもし友人がLGBTQであるということをカミングアウトしてきたとき、あなたはどう思いますか」や、「家族がLGBTQだったらどうですか」みたいな2種類聞いています。友人だったら良いが家族だったら嫌だとか、そんなことが出てきたりしてる意識調査の結果もあります。</p>

事務局	<p>入れたかった、残念です。</p> <p>申し訳ありません。</p>
会長	<p>このようなアンケートを実施するということで、また結果を聞かせていただける。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会長	<p>了解しました。</p> <p>見てほしい動画について、良いでしょうか。</p> <p>(YouTube 視聴)</p>
会長	<p>これが YouTube にある「地方女子プロジェクト」です。</p> <p>この前まで3つの動画しかなかったのですが、現在進行形ですので良かったらまた見てください。すごく、「なるほど」と感じる感じがいっぱいあります。</p> <p>今日はこれを見ていただいて終わります。</p>
事務局	<p>スケジュールを改めてお示しさせていただいております。</p> <p>次回は11月の中旬頃で、こちらの資料の出来具合のところでもありますし、また日程調整をさせていただいてお集まりいただき、また御意見をいただきたいと思っています。</p> <p>次は、施策のところのお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>どこでも言いますが、四の五の言っている時間ないです。</p> <p>具体的にこれやろうだとか、ここへ予算を入れるとか、そういうことをやらないと、10年後がどうなるかということがとにかく大事かと思っています。</p> <p>それでは最後、挨拶をお願いします。</p> <p>5 閉 会</p>
事務局	<p>皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。次回は11月ということで、いろいろ御意見があると思います。その中でまた新しいプラン等の改訂というところにつなげていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>

	<p>本日は、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。</p>
--	-------------------------------------